

最適年金の理論*

藤井隆雄† 林史明‡ 入谷純§ 小黒一正¶

2011 年 12 月 27 日

要旨

2 世代交代モデルを用いた部分均衡による最適年金の理論を提示する。家計の効用関数は 2 期間の消費と労働を変数とする。効用関数が 2 期間の消費に関して m 次同次関数であるとき、最適年金の性質として次が得られる。(1) 人口成長率の時点による違いは各世代の年金の最適負担率の相対的な値には影響を及ぼさない。(2) $m \neq 0, m < 1$ の時、最適年金制度の陽表解を与えることができ、市場の時間選好率の社会厚生の時選好率にたいする比率の大きさが最適負担のありようにとって、決定的に重要である。

*本稿の初期の草稿には上東貴志教授（神戸大学）より助言を頂いている。感謝申し上げたい。

† 神戸大学大学院経済学研究科准教授 E-mail: fujii@econ.kobe-u.ac.jp

‡ 神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程 E-mail: 082e527e@stu.kobe-u.ac.jp

§ 神戸大学大学院経済学研究科教授 E-mail: iritani@econ.kobe-u.ac.jp

¶ 一橋大学経済研究所准教授 E-mail: k-oguro@ier.hit-u.ac.jp